

執筆者紹介 (執筆順)

①生年 ②所属 ③専攻分野 ④主な業績

*序章・結章は執筆者全員で分担

熊野直樹(くまの なおき)——序章・結章(統括責任者)、第5章

- ①一九六五年
- ②九州大学大学院法学研究院
- ③ドイツ現代政治史、独「満」関係史
- ④「ナチス一党支配体制成立史序説」(単著、法律文化社、一九九六年)、「社会主義の世紀」(共編著、法律文化社、二〇〇四年)。

柴尾健一(しばお けんいち)——第1章

- ①一九六六年
- ②九州大学大学院法学研究院
- ③日本政治思想史、日本医療政策史
- ④「救軍事護(扶助)法の史的展開」『九州歴史科学』第三〇号(二〇〇二年六月)、「近代日本の総力戦体制期における戦傷病者援護対策の構造」『九州歴史科学』第三二号(二〇〇三年六月)。

山田良介(やまだ りょうすけ)——第2章

- ①一九七二年
- ②長江師範学院外国語学院日本語学部
- ③日本政治史、日朝関係史
- ④「東アジア国際秩序の変容と朝鮮」石川捷治・平井一臣編『終わらない20世紀』(法律文化社、二〇〇三年)、「近代日本における「アジア主義」の展開」熊野直樹・星乃治彦編『社会主義の世紀』(法律文化社、二〇〇四年)。

中島琢磨(なかしま たくま)——第3章

- ①一九七六年
- ②日本学術振興会特別研究員
- ③日本外交史、日米関係史
- ④「佐藤政権期の日米安全保障関係」『国際政治』第一五一号(二〇〇八年三月)、「一九六七年一月の佐藤訪米と沖繩返還をめぐる日米交渉」『年報政治学』二〇〇九(二〇〇九年六月)。

北村 厚(きたむら あつし)——第4章

- ①一九七五年
- ②九州大学大学院法学研究院
- ③ドイツ外交史、ヨーロッパ統合史
- ④「戦間期ドイツにおける国際カルテル論」『政治研究』第五三三号(二〇〇六年三月)、「ヴァイマル期ドイツにおける地域主義の研究」(九州大学大学院法学府、二〇〇七年三月、博士論文)。

金 哲(きん てつ)——第6章

- ①一九七三年
- ②長江師範学院外国語学院日本語学部
- ③中国近現代史、中国土地政策史
- ④「東満の民主大同盟に関する考察」『法政研究』第七一卷第四号(二〇〇五年三月)、「東満州の中国共産党組織における党内粛清運動の起因」『政治研究』第五四号(二〇〇七年三月)。